同窓会だより

●発　行
千葉県立船橋高等学校同窓会
〒273-0002　千葉県船橋市東船橋6−1−1
ホームページ http://www.dosokai.ne.jp/kenfuna/
E-mail funaobog@gmail.com
●印　刷　㈱サラト
姫路市北条宮の町172番地
TEL079-284-1380

題字／小原天簫先生

母校百周年に向け
全会員に同窓会だよりをお送りします。

100周年記念事業にむけて
2020年、母校は創立100周年を迎えます。

同窓会会長
子安啓司（昭和43年卒）

1920年建学から大正、昭和、平成へと、その時代時代の生徒のたゆまぬ努力と良き師の指導との啐啄により、文武両道の誉れ高い校風が築き上げられております。2020年に、わが母校千葉県立船橋高等学校は創立100周年の大きな節目を迎えます。又、2020年は東京オリンピックの開催もあり、五輪村に中学生で行った私には感慨深いものがあります。ただ猛暑や集中豪雨でオリンピックの運営に危惧も多いし、全北海道ブラックアウトした北海道厚真地震も衝撃でした。米中貿易戦争に日本も巻き込まれる懸念、北朝鮮の核廃棄もどうなるかと、自然・経済・政治全般に不安感を抱かざるを得ません。

然し、科学、経済、スポーツ他時代を担う人々の活躍により、道は切り開かれていくと考えますが、その中に母校の同窓生諸兄の活躍があり、更には後輩が続いて時代を担っていくと思います。そのためにも学校という器も充実が必要ですが、少子高齢化社会を迎え厳しい財政下、並べて千葉県の教育予算は抑制されており、父兄・同窓会の役割が期待されております。同窓会は、創立70周年、80周年、90周年と節目毎に歴代会長のもとに同窓生の協力の下、母校と一体となった記念事業を行い、母校への応援体制を築いてまいりました。諸先輩のご努力と母校への思いが結実し、春の同窓会、同窓会だより、ホームページ、校歌記念碑等々、同窓会活動も充実してきております。

2020年秋に想定された母校の創立100周年式典は正に世紀単位の節目となります。又、新元号での新しい飛躍の年です。この時代に生まれ育ち学び、巣立ち働き100周年に立ち会える僥倖に母校の「輝く歴史」を体感できればと願う次第です。

昨年は多くのご協力により同窓会名簿を刊行でき、30年8月同窓会総会を経て、千葉県立船橋高等学校創立100周年記念事業実行委員会が**前船橋市長　藤代孝七氏（昭和36年卒）を実行委員長**として発足しました。

1.記念式典の日時場所と講演会講師の決定　2.記念誌の発行　3.教育活動・部活動の推進　4.国際交流事業の推進　5.その他100周年記念事業に一環として必要な事柄を行っていかれます。

同窓会としては、諸事業を行う原資として募金活動を開始することになり一般寄付募集でお願いすることに成りました。当初予定していた非課税控除募金は、今年から母校が3ヵ年で、建て直しか改修かを調査、検討、実施計画する対象となりました為、非課税寄付控除の対象となる設備などを受けてしまったら、建て直しなら無駄に、改修でも邪魔になるわけです。

創立百周年という節目に、同窓生の皆様の益々のご健勝を祈り、母校及び母校同窓会へのご協力とご助力をお願い申し上げます。

同窓生＆在校生（平成30年10月1日現在）

同窓会会員総数　34,242人
名簿登載数　33,863人
　内全日制27,582人、定時制5,180人、恩師1,101人
住所不明者数　11,009人

在校生
　全日制　男623人　女466人　計1,089人
　定時制　男150人　女 84人　計 234人
　教職員　全日制83人　定時制30人　計113人
　　内同窓生14人

百周年記念事業によせて

創立百周年記念事業
実行委員会実行委員長
藤代孝七

この度母校を核に千葉県立船橋高等学校創立百周年記念事業実行委員会が組織され、実行委員長の大役を仰せつかりました。今後様々な事業が企画されてまいりますので皆さんのお力をお借りし遂行して参ります。

母校船橋高等学校は大正9年の建学から百年、数多くの優れた卒業生を輩出し、郷土船橋の中核をなす学校として全国に名を馳せております。これは恩師の篤い思いと生徒の不断の努力が結実したものであります。2020年に迎える百周年では先人の足跡を振り返り、同時に輝ける歴史を引き継ぎ、更に栄光の未来を拓く船高生にエールとなるような記念事業を行って参りたいと思っております。

実行委員会は母校、全日・定時PTA、教育振興会、同窓会の5団体で組織されております。それぞれの組織が持てる力を合わせて大きな事業に取り組むこととなりますが、中でも同窓会の果たすべき役割はひと際大きなものと考えております。子安会長を中心に取り組まれることと存じますので紙面をお借りし、改めて皆さんのご理解、ご協力を切にお願いする次第です。

（昭和36年卒、前船橋市長）

ご挨拶

校長　安藤久彦

同窓生の皆様には、日頃より母校の教育活動に御支援を賜り、誠にありがとうございます。皆様の母校の校長を拝命し身の引き締まる思いです。

船橋高校は毎年県内有数の志願倍率となるなど、中学生、保護者の皆様にも大変人気の高い学校となっています。難関を突破した在校生は、「船高」に誇りを持って、学業、部活動、学校行事に勤しんでいます。卒業後の進路も旧帝大などへの進学者が増加するなど、ますます充実してきました。

皆様の母校の発展と後輩の活躍のために、職員一同指導に尽力しているところですが、今後は大学入試のあり方が大きく変わるとともに、次期の学習指導要領では思考力、判断力、表現力を養う主体的・対話的で深い学びの実現が求められています。時勢を読み、教育の新しい流れにもしっかりと対応してまいります。

いよいよ創立百周年が迫ってきました。記念実行委員会が組織され、記念事業の推進も本格化してきます。職員も同窓会員との協力を惜しまず、船高一世紀の節目を盛り上げたいと思います。今後とも御支援、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

「高嶺の花」の歴史

副校長　安留千恵

「船高」と言えば、受験生の多くにとって「高嶺の花」。その歴史が脈々と受け継がれてきたのは、ひとえに同窓生の皆様お一人お一人のおかげです。心から感謝申し上げます。

本年四月に副校長として定時制に着任いたしましたが、日々、歴史と伝統の重みをひしひしと感じながら過ごしております。全日制・定時制合同の活発な同窓会活動が歴史を刻み、間もなく創立百周年を迎えようとしています。最近は人生百年時代という言葉をよく耳にするようになりましたが、百年というのは人の一生より長いとも言える歳月です。すばらしい歴史だと感じています。

また、定時制においては、二〇二二年春に県立行徳高等学校定時制との統合、及び普通科から総合学科への改編が決定し、本年度から統合準備業務が始まっています。総合学科は、地域や産業界等との積極的な連携を図り、キャリア教育を重視した学科です。県内最大規模の夜間定時制高校として、今後ますます生徒たちの多様なニーズに応えていくことになります。更なる百年に向かって……。

ご挨拶

教頭　髙野　裕

今年度4月より教頭として着任いたしました髙野です。よろしくお願いいたします。同窓生の皆様には、日頃より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、県立船橋高校は、2020年に創立百周年を迎える県内屈指の伝統校として多くの期待を受けております。これは、卒業生の多方面での活躍と、諸先輩方に続けと日々切磋琢磨している在校生のたゆまぬ努力の裏付けであると確信しております。現在本校は、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール、千葉県教育委員会から進学指導重点校の指定を受けております。この二つの取組は、生徒の探究力育成、進学実績という形で確実な成果を上げていることは皆様も周知のことと推察いたします。今後も教育環境の充実、百周年記念事業の成功をはじめとして、本校の更なる発展に向けて教職員一同力を合わせて努力して参りますので、変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

事務長　佐々木弘子

今年度着任しました事務長の佐々木と申します。

同窓会の皆様におかれましては、日頃より大変お世話になり感謝申し上げます。

船橋高校は2020年に創立100周年を迎えます。施設の老朽化が進んでおりますが、同じ年、県有建物長寿命化計画のもと改修に向けた調査が始まる予定です。計画では、仮設校舎を設置する予定はなく、夏休みを中心に工事を実施、それ以外は居ながらの工事になるとのことです。どの部分を、どこまでやるのかなどは今後の課題です。

また、2022年には船橋高校定時制と行徳高校定時制の統合及び総合学科への改編も予定されております。

このように、船橋高校は、今、大きく変わろうとしています。

今後とも、船橋高校のますますの発展の為に、同窓会の皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

平成三十一年

『春の同窓会』ご案内

実行委員長
山田　聡（昭和52年卒）

平成三十一年二月十一日（祝・月）に、恒例となりました『春の同窓会』を開催いたします。

今回が特別なのは、平成最後の同窓会ということでしょうか。この平成という日々を総括することは、これから年末にかけて繰り広げられるであろう報道にお任せしますが、我らが母校、県立船橋高校出身の首相が誕生したことは、やはり最大の出来事だったと思います。そして、昭和52年卒の私たちの代が、還暦を迎え、幹事の役を担うのがこの春の同窓会であることは、私たちの記憶の色あせない頁となるのだと思います。

さて、この代には現在船高で教鞭を執っている同窓生が三人います。ですから、現在の船高生の様子を耳にする機会が、比較的よくあります。昔に比べると、格段に真面目だとか。それでも、たちばな祭にかけるエネルギーや部活動に打ち込む直向きさは、脈々と受け継がれていると聞いています。自分たちが過ごした学び舎は、早く衣替えしてよと思いますが、そこで過ごす後輩たちの日々の息遣いが、我がことのように感じられてうれしい限りです。

この、同窓会だよりを手にされている諸先輩や後輩の皆さん。二年後に百周年を迎えるわが母校に思いを馳せ、記念すべき同窓会に足をお運びください。そこには、懐かしい顔があり、言葉を交わす内に、いつの間にか高校時代にタイムスリップすることは間違いありません。

皆さまと楽しいひと時を過ごしたく、御参加を心よりお待ちしています。

百周年記念事業に向けて

母校は2020年に創立百周年を迎え、記念事業が計画されます。同窓会としてこの事業に協力し、皆さんからご理解とご賛同を賜るよう、同窓会だよりを本号から3回、現時点で住所が確認できた方全員にお送りします。

大正9年（1920年）の建学から船橋の地で母校船高は綿々と歴史を重ね卒業生は各界で活躍され、34，000人を超える方が会員です。会員の皆さんにとって学び舎「船高」は掛け替えのないものであると確信しておりますが、今後も母校の名が広く轟くようにとの思いを込めて皆さんとともにこの記念事業を完遂しなければならないと考えております。

本号では百周年記念事業についてお知らせし、併せて寄付金をお願い致します。実行委員会が立ち上がったばかりでのお願いとなり十分なご案内ができないとは存じますが重ねてのご支援をお願い申し上げます。

船橋高等学校創立百周年記念事業実行委員会

母校、全日制PTA、定時制PTA、定時制教育振興会、同窓会が創立百周年記念事業実行委員会を組織しました。委員長には同窓生（前船橋市長）の藤代孝七氏が推挙され、会長他役員5名が委員に就任しました。今後はこの実行委員会を中心に4つの記念事業に取り組むこととなります。

1 記念式典・記念講演会　同窓生から講師を選任し、2020年11月に開催。**2 記念誌編纂**　百年の歩みを資料的に価値あるものとし後世に。**3 生徒行事**　在校生が主体的に参加する行事を検討。**4 教育活動への支援**　母校の教育環境の充実。

同窓会からのお願い

これらの事業の実施に必要となる資金を今後2年間寄付金として募ります。同窓会の主催の事業は式典当日の祝賀会と別日程でのホームカミングデーとなります。ご寄付をいただいた方々にご案内を差し上げる予定で準備を進めています。また、有志主催の合同演奏会を協賛させていただきます。

ご留意ください

振込書は2部同封しました。毎回お願いしている同窓会運営費が一口千円のもの、百周年の寄付は一口五千円のものとなります。お間違えなきようお願いします。

同窓会だより

年1回、同窓生の近況や母校の現況等を掲載し発行しています。全会員にお読みいただきたいのですが、皆さんのご協力なしには発行が継続できませんので、運営費をお振込みいただくようお願い申し上げます。なお、全員への送付は3回を予定し、その後は運営費または寄付金を納付いただいた方に送付させていただきますのでご了承ください。

総会報告

本年度の総会は8月5日に開催されました。決算予算を報告いたします。

同窓会副会長　島﨑喜一（昭和48年卒）

平成29年度決算及び平成30年度予算

1．収入の部

科　目		30年度予算	29年度予算	29年度決算	28年度決算
繰越金		14,051,426	11,569,660	11,569,660	9,688,844
	一般会計	14,051,426	11,569,660	11,569,660	9,688,844
会　費		6,330,000	6,330,000	7,118,348	7,863,720
	入会金	1,230,000	1,230,000	1,227,000	1,230,000
	春の同窓会	2,600,000	2,600,000	2,994,000	3,493,000
	同窓会運営費	2,500,000	2,500,000	2,897,348	3,140,720
雑収入		192,600	6,000	1,252,182	67
	雑収入	191,100	4,500	1,252,100	0
	利息	1,500	1,500	82	67
合　計		20,574,026	17,905,660	19,940,190	17,552,631

2．支出の部

科　目		30年度予算	29年度予算	29年度決算	28年度決算
会議費		200,000	200,000	147,036	132,810
	総会	100,000	100,000	102,036	94,810
	理事会	100,000	100,000	45,000	38,000
需用費		390,000	390,000	205,272	202,916
	通信手数料	150,000	150,000	101,409	130,731
	印刷費	100,000	100,000	50,000	50,000
	消耗品費	20,000	20,000	8,215	10,483
	謝金等諸費	70,000	70,000	0	0
	運営雑費	50,000	50,000	45,648	11,702
後援費		1,070,000	1,070,000	716,941	796,401
	母校応援費	800,000	800,000	560,540	660,000
	特別奨励金	100,000	100,000	0	0
	卒業記念品	120,000	120,000	106,401	106,401
	クラス会補助	50,000	50,000	50,000	30,000
餞別及び慶弔費		80,000	80,000	54,580	60,000
	餞別金等	30,000	30,000	40,000	60,000
	慶弔費	50,000	50,000	14,580	0
春の同窓会費		2,350,000	2,350,000	2,181,136	2,416,580
	会場費	2,000,000	2,000,000	1,831,136	2,066,580
	幹事学年諸費	300,000	300,000	300,000	300,000
	運営雑費	50,000	50,000	50,000	50,000
会報及び広報費		3,150,000	2,850,000	2,559,799	2,374,264
	会報発行費	3,000,000	2,700,000	2,462,167	2,374,264
	ＨＰ運営費	150,000	150,000	97,632	0
雑費		3,000	—	24,000	—
	入会金返戻	3,000	—	24,000	—
予備費		13,331,026	10,965,660	—	—
繰越額			—	14,051,426	11,569,660
合　計		20,574,026	17,905,660	19,940,190	17,552,631

わが同窓

株式会社講談社
今井　秀美
（昭和52年卒）

今井秀美略歴（昭和52年卒）

1983年３月、千葉大学人文学部哲学科卒業。同年４月、株式会社講談社入社。with編集部、モーニング編集部、週刊現代編集部、ヤングマガジン編集部、小説現代編集部などを経て、現在は、現代ビジネス編集部編集次長。担当した連載は、『あさきゆめみし』大和和紀、『アイドルを探せ』吉田まゆみ、『今週のイエローカード』セルジオ越後、『代紋TAKE2』木内一雅＋渡辺潤、『ブラックペアン』海堂尊、『影法師』百田尚樹、『アフリカにょろり旅』青山潤、『湖底の城』宮城谷昌光、『ジョン・マン』山本一力、『広域』横山秀夫など。

財産を与えてくれた三年間

私が県立船橋高校に入学したのは、一九七四（昭和四十九）年。

この年の十月、我々の代が生まれた一九五八年にプロデビューした長嶋茂雄が、十七年間の現役生活に終止符を打った。

小学校入学から中学卒業までが、ONを主軸とする巨人のV9と重なり、巨人の優勝しか見てこなかった世代ゆえ、ミスタープロ野球の引退に、ひとつの時代の終焉を感じたものだが、その十九年後、まさか自分が、その長嶋さんに何度もインタビューする立場になるとは思いもしなかった。

一九八三年に講談社に入社して、ファッション誌を皮切りに、漫画誌、週刊誌、文芸誌などの編集部を巡り、三十五年の会社生活をほぼ雑誌編集者として過ごしてきた。

定年まであと一年となって振り返れば、時代に恵まれたせいもあり、ただひたすら面白かったというしかない。特に面白かったのは、一九九一年から九六年まで在籍した週刊現代だ。長嶋さんに度々インタビューさせてもらったのもこの頃。その長嶋さんの前に敢然と立ちはだかったサウスポーで、私にとって最大のヒーローだった江夏豊さんの連載を担当させてもらったのもこの頃だ。

そして、最も印象深いのは、ある作家との出会いだ。

●希有な才能との出会い

九四年のある週、入稿の徹夜明け。持っていた本を読みきってしまい、帰宅途中、西日暮里駅の本屋で、まったく無名の新人作家のデビュー作をタイトルに惹かれて購入した。松戸駅に着くまでに五回吹き出した。北柏駅に着くときは涙を堪えるのに必死だった。こんなに笑えて泣ける小説は読んだことがなかった。

早速、プラン会議で、この作家の連載エッセイの企画を出した。当然、無名の作家ゆえ素通りされた。諦めきれず、四週連続でその企画を出し続けた。しつこさに呆れた編集長が、「一度会って、見本を書いてもらえ。面白かったらやらしてやる」と条件付きで通してくれた。

書いてもらった見本はめちゃくちゃ面白かった。そして、当時、百万部に届こうとしていた週刊現代で、無名の物書きの連載エッセイが始まった。

タイトルは『勇気凛々ルリの色』。

作家の名は、浅田次郎。

それからすぐに、彼は、『地下鉄に乗って』『蒼穹の昴』『鉄道員』と立て続けにヒットを飛ばし、瞬く間にベストセラー作家となっていった。

編集者の醍醐味のひとつは、「無名の才能を見つけ出し、その才能が世を騒がせていく過程に、最も近いところで併走する」ことにあるが、浅田さんとの出会いは、その最たるものだった。（ちなみに、私が買った浅田さんのデビュー作は『きんぴか』のタイトルで光文社文庫に入っている）

●きっかけは九紋龍史進

そんな楽しい日々を過ごせたのも、ひとえに講談社という会社に入れてもらえたからだが、この会社を志望した理由の大本は、船高二年F組でのひとりの友との出会いだった。

柔道部の大森雅之。彼に興味をもったきっかけは、彼が、高校受験時の志望書の「尊敬する人物」の欄に「九紋龍史進」と書いたと聞いたからだ。

「史進って、水滸伝の登場人物でしょ。架空の人物を書いちゃっていいの」

と呆れたことから、徐々に親しくなり、彼の持つ吉川英治著『新・水滸伝』全四巻と、自分の司馬遼太郎著『竜馬がゆく』全八巻を交換する。それから、『宮本武蔵』『鳴門秘帖』『私本太平記』……吉川英治の世界にどっぷりはまり、大学時代も、山本周五郎、池波正太郎、山岡荘八、子母澤寛らの時代小説を貪り読むようになった。

大学五年となり、就職活動を始めるにあたり、第一志望に決めたのは、あのとき、大森と交換した『新・水滸伝』の版元・講談社だった。入社して二十年以上経ってから、「吉川英治文学新人賞」の選考にかかわるようになったときは、十六歳だったあの日のことを思い出し、うれしくて独り笑ってしまった。

大森とは、船高を卒業して一緒に予備校に通い、その後も途切れることなく付き合いは続き、私の三度の結婚式にもすべて出席してくれた。税理士となった大森はいま、私がデビュー時に担当した作家・薬丸岳氏（『Aではない君と』他）の税務を担当してくれている。

●四十年以上、年に一度は

船高卒業以来、途切れず付き合いが続いているのは、大森だけではない。

会社生活は楽しかった、面白かったと書いたが、振り返ってみれば、毎週、毎月締め切りがあり、昼夜ない生活で、若手の頃はパワハラが日常だった。ストレスで煮詰まることは何度もあった。

そんなとき、絶妙のタイミングで電話をくれ、一緒に酒を酌み交わし、バカ話で盛り上がって、気持ちを切り替えてくれたのは、船高の同級生たちだった。

大森と同じ二年F組の同級生だった野球部の小林正光は、本田技研に就職し、イタリア、カナダ、ドイツと海外赴任が多かったが、一時帰国するときは必ず飲んでいる。同じく剣道部の関口真も住友不動産で転勤族だが、彼の赴任先の北海道で痛飲したこともあった。

校門前のプールで一緒に泳いだ水泳部の連中とは、三月のOB会で必ず年一回は顔を合わす。個人競技なのだが、キャプテン山田聡を中心にチームワークがいい。

水泳部のOB会は五十年を超え、一度も途切れることなく続いているが、他の代が来なくなっても、我々の代は四十一年間ずっと、少なくとも四、五人は出席している。

この原稿を書くにあたって、考えてみた。卒業以来、年に一回は会うか電話で話す船高の同級生は十人を超える。中学や大学の同級生ではひとりもいない。なぜなんだろう。

それは、あの三年間があまりにも楽しかったからだ。適度に勉強し、適度に泳ぐゆるさのなかで、真剣に互いの考えをぶつけ合う時間は膨大にあった。まだ大人の殻ができる前に心の柔らかい部分まで触れ合えた友は、何にも代え難い財産だ。そんな宝物を与えてくれた船橋高校に感謝感謝！

恩師探訪

聖徳大学教授　友松幹雄先生

船高には、一九八七年四月から一九九九年三月までの十二年間と二〇〇六年四月から今年の三月までの十二年間数学科の教員として勤務しました。反省することの数々で昔を振り返るのは好きではありませんが、船高での経験を思いつくままに記します。

初めの十二年間

赴任して生徒会顧問と軟式テニス部の副顧問を務めました。

一九八七年は体育祭と陸上競技大会の両方が行われた唯一の年でした。体育祭の後、臨時評議会を何度も開いて議論した末、体育祭は球技大会に変更されました。陸上競技大会は体育の授業の一環ですが、体育祭は生徒会予算を使う行事です。生徒会行事は生徒会会則に則って自身で決める、そんな自治の意識が強く残っていました。陸上競技大会誕生には生徒会本部が係っています。その経緯はのちに創立七十周年記念誌の生徒会の記録を執筆した際に載せました。執筆のために生徒会室の資料を九か月かけて調べたので七〇年代、八〇年代の船高の様子にも詳しくなりました。

応援委員会がクラブ制委員会に変更されたとき、クイズ研究会部が同好会として発足したときの評議会にも立ち会いました。また、オーケストラ部が生徒会予算の品目変更を評議会で否決されたことがありました。翌年、議決の主導権をにぎるべく大勢のオーケストラ部員が評議員になりました。評議会の力を実感する出来事でした。

一九九三年度の卒業式に国歌斉唱が導入されました。生徒会本部は導入に反対する生徒たちの意見に配慮して斉唱を強制するべきではないという立場で学校側と交渉を続けました。結果、開会に先立って「支障のない限りご協力ください」という旨の教頭の説明を入れることで落ち着きました。顧問としてもっと適切に対応できたのではと反省していますが、生徒会長をはじめとする本部役員の理性的で誠実な対応は本当に立派で頼もしかったです。

赴任した年、すでに定年退職され非常勤講師として残られていた椎名先生にご自身の膨大な学習ノートを見せていただき、感銘を受けました。先生の足元にも及びませんが、常に勉強し続ける教員でありたい、生徒と共に学びあう関係でありたいと思い、数学書を読み続けました。また、赴任して四年目からプログラミングに夢中になりました。優秀な船高プログラマーたちとも知り合い、彼らから大いに刺激を受けました。

クラス担任は一、二、三学年と持ち上がり、翌年は副担任というサイクルを三回繰り返しました。三回目は理数科の担任でした。指導力のない担任で申し訳なかったです。

二度目の十二年間

初めの十二年間は私の三人の子を通勤途中の保育園に送り迎えする生活が続いて余裕がなく、自分のことだけで手一杯でした。そこで、今度は少しでも学校のお役に立ちたいと思い、エクセルのVBAやアクセスを活用してコンピューター処理システムを開発していきました。調査書や入学試験の処理を十年以上ミスなく終えられてほっとしています。でも三年間理数科のクラス担任をした後はずっと無学年でした。

船高に戻ってから五年間ソフトテニス部の第一顧問を務めました。ソフトテニスの経験がなく運動も苦手な頼りない顧問でしたが、部員たちは男女とも毎回県大会出場を果たすなどおおいに活躍しました。練習試合や大会でプレーする姿を懐かしく思い出します。

数学の授業はずっとプリントで行いました。テフで作ったプリントをホームページで公開しています。プリントをよく読んで質問にきてくれる生徒たちとの会話が楽しかったです。

二〇〇九年に船高がSSHに指定され、数学の課題研究が始まりました。数学の場合、生徒が興味をもった研究対象を調べ、そこで浮かんだ「問い」の中からテーマが決まっていきますが、ここまでにかなりの時間を使います。二年生から新しいテーマを探し始めた場合、八月にテーマが決まることも珍しくありません。それでも研究発表会にはなんとか間に合っています。課題研究では大学の先生からいただく助言が励みになりました。必要になれば整数論、線形代数、群論などを一緒に勉強もしました。時間に追われるスリルはありますが、生徒と一緒に考える課題研究はとても楽しく充実しています。数学と情報分野の研究を選んだ理数科普通科両方の生徒の研究をたくさん担当しましたが、ユニークなテーマや深い考察にいつも感心させられました。毎年、千葉大学、日本科学未来館、つくば国際会議場等で行われる研究発表会で大きな受賞を受ける研究がでています。

二〇一〇年に数学同好会が発足し、顧問になりました。昨年から会の有志が整数論の勉強会を始めました。今は数学オリンピック対策の勉強会を続けていて頼もしいです。数学オリンピックはAランクがのべ四名になりました。

二〇一五年からコンピューター部の顧問も務めました。顧問になる前から才能のある生徒を見つけて入部させてきました。情報オリンピックはこれまでAランクが一名ですが、東工大・阪大主催のスーパーコンピューティングコンテストは四年連続本選出場を果たし、二〇一五年、一六年は連続全国四位と活躍しました。

今思うこと

いろいろな分野で活躍する多くの素晴らしい生徒たちとの出会いは私の宝です。また、放課後数学の補習に呼んだ生徒たちと交わした会話は、数学の教員としてどうあるべきか考え直す機会になり、忘れられません。

課題研究のように数学を学問としてとらえればわかることですが、数学の勉強に大切な能力は問題の解き方を暗記する能力ではありません。私は数学の記述を読み取る能力だと思います。それは解き方だけ暗記すればいいという人があまり使わない能力だと思います。

六五歳になって再任用満了となり、船高を去ることになりましたが、新しい職場でも若い人たちからエネルギーをもらってこれからも仕事を続けたいと思っています。

聖徳大学にて

生徒活動報告

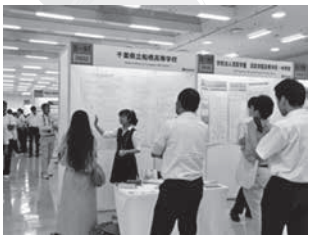
理数科3年　佐藤ふたば

平成30年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会において、数学分野で『ブレスレットモデルを用いたルカ数列の拡張』というテーマでポスター発表を行い、審査委員長賞をいただきました。数学・情報分野1位に選ばれ、1,500人を超える全国から集まった高校生や先生方の前で、口頭発表をする機会をいただきました。

高2の夏から始めた研究でしたが、高3の夏に最後までやりきることができて本当によかったです。課題研究を通じて、大きく成長することができました。高校範囲を超えて必要なことを自分で勉強し、発表時に他の人に伝えるための工夫をするなど、粘り強く努力することの大切さを知りました。締め切りが近いときには体調を崩すほどつらいときもありましたが、大学や社会に出てから自分で勉強していくときにどうすればいいのかわかりました。また、研究発表を行う中で、多くの他校の生徒や大学の先生方と交流することができました。研究を続ける際の新しい糸口を得られただけでなく、大学以降の見通しをもつことや、研究そのものを続けるモチベーションに繋がりました。自分の方針が正しいのか不安になるときもありましたが、自分を信じて頑張りきることができました。

課題研究を通じて、今まで以上に数学を好きになりました。普段自分が書いた答案を多くの人に見てもらう機会はありませんが、課題研究では自分の問題を他の人と共有する楽しさを知ることができます。課題研究がなければ、大学で数学科に行きたいとは思わなかったでしょう。研究職につくかどうかはわかりませんが、今後の人生で課題研究をしたことは必ず支えになると思います。

このような経験は、船高の理数科でなければ得られませんでした。苦しい時間も長かったですが、研究をして楽しかったです。恵まれた環境で高校生活を送ることができた幸せを感じています。最後に、協力してくださった先生方、特にいつも私の書いたつたないレポートを読んでくださり、親身に支えてくださる友松幹雄先生に心から感謝申し上げます。



船高の歴史（二三）

同窓会とその運営の苦労

―活動資金の確保への努力―

小川信雄（元千葉県立千葉高校教諭、一九六三年卒業）

船橋高校の同窓会の創設と運営については、『創立五十周年記念誌　千葉県立船橋高等学校』（一九七〇年）の夏加秀之助「同窓会の歴史―記録風に―」（二八七～二〇二頁）に詳しい。その記事から同窓会の歴史をまとめてみよう。一九二〇（大正一一）年四月に船橋大神宮の宮司千葉健吉氏は、一九一八年に賀川宣勝氏が創立した東華学校を引き継いで修業年限三年の私立船橋中学院としたが、これが千葉県立船橋高校の創立の年である。さらに一九二九（昭和四）年三月に財団法人船橋中学校の設立が認可され、四月一日に私立船橋中学校が発足した。校長は弁護士斎藤林平氏、理事長は千葉健吉氏が就任して、生徒数七〇名、四学級であった。一九三三（昭和八）年に中学校第一回卒業生が生まれた。その後、設立年月は不明であるが、中学院卒業生による千葉健氏を中心に「意富比会（おおひかい）」という同窓会を開いていた。さらに私立、市立、県立中学校の卒業生は「船中同窓会」を組織していた。同窓会の会長は一九五二（昭和二七）年まで学校長が務めていたという。ただ一九三一（昭和六）年、満州事変から三七（昭和一二）年の日中全面戦争へと続く戦時体制の強化のなかでは同窓会の活躍は限られていたようである。私立時代から教員であった瀬山一男氏が事務を担当し、毎年一回、学校行事、生徒活動の記録、作文などをのせた会報を作成して、生徒に配布していた。会費は生徒が卒業時に終身会費五円を納入で賄われており、一九四五年の敗戦まで続いていたという。

戦時中の一九四四（昭和一九）年に千葉県立船橋中学校となり、さらに敗戦後の一九四八（昭和二三）年、学制改革によって、千葉県立船橋高等学校となったが、その前年に中学校の同窓会と中学院の卒業生の同窓会「意富比会」が統合され、名実ともに「千葉県立船橋高等学校同窓会」が発足した。同窓会の会長は一九五二（昭和二七）年までは校長であったが、同年総会から中学院第四回卒業生であった田中健氏が就任し、六一（昭和三六）年に中学院第二回卒業生の伊藤島村氏が就任した。新制高校発足時から一九六〇年代までは組織はもとより資金が決定的に不足をしていた。山口久太第三代校長（一九四八（昭和二三）～五二）年がヘルシンキオリンピック大会の日本選手団顧問として赴くときに、同窓会はその餞別金すらなく、借入金でまかなったといわれている。

同窓会は資金を安定させるためには同窓生の動向をしることが必要であるとして、一九五六年一月、初めての名簿が作成・配布された。さらに学校への後援のために、同窓会幹事と学校会計係の協力によって、同窓会会計が独立会計となった。

同窓会資金と組織づくりがすすめられるなかで学校建設への資金援助（校舎の鉄骨化）と同窓会館の二つの事業計画がたてられた。同窓会の総会は毎年八月第一日曜日、午前一〇時から母校でひらかれるようになっていた。総会参加者も同窓会発足当時は三、四〇名であったが、五七年ごろになると二〇〇名をこえるようになった。母校への後援事業は主力は野球部、バレーボール部などにおこなわれた。なかでも「同窓会育英資金制度」と「船橋市高等学校定時制教育・通信教育振興会」にかかわる定時制分校計画である。

一九五四（昭和二九）年の総会に当時、千葉県下初と考えられる同窓会育英資金制度が作られた。在校生三名に月額一、〇〇〇円で年額一二、〇〇〇円を貸与するというものであり、一九六五（昭和四〇）年からは月額一、五〇〇円に増額された（この育英資金制度は現在、廃止されている）。定時制・通信制教育振興会の件では、定時制在校生で市川市の日本毛織に勤務していた生徒から同窓会に対して、定時制分教室設置の要望が寄せられたことであった（「定時制課程日毛分教室」については同窓会報第一八号でのべた）。当時の同窓会会長田中健氏の尽力によって、船橋市小栗原公民館の一部を借用し、改築して分校での授業がおこなえるようにしたことであった。

校舎鉄骨化と同窓会館建設については、同窓生へ寄付金を募ったが、目標額に達することは不可能と同窓会会長ら幹部は判断し、基金捻出のためにプロレスリングの興行を計画した。その内容や経過について、『創立五十周年　記念誌』の萩原忠氏の記述を引用する。なお（　）内の注は筆者の説明である。

「時の会長伊藤島村氏は目標額にいたることが困難であると判断し、当時人気のあったプロレス力道山一行の興行によって基金捻出を計画し、昭和三七年六月に興行をすることに決定し、四月に準備にはいった。場所は母校校庭とし、…ポスターや入場券を検討し、…市内有名店に配布して売りさばきを依頼した。五百円券、千円券、千五百円券の三種類で五千枚を目標に売り始めた。六月にはいって開催を前に二つの問題がでた。一つは場所の問題で校庭の使用が不可能となった。「教育上好ましくない」ということで…場所は…学校より百メートル南の空き地を借用することができた（注　当時、朝日新聞、毎日新聞などにこのプロレス興行は問題であるとの記事が掲載された。またこの空き地の所有者は同窓生であったということである）。第二の問題は仮設興行権の問題であった（注　船橋内の興行権者から自分たちの興行権を犯すものというクレームがあり、ポスターがはがされ、前売券の販売への妨害がおこった。この解決に尽力したのは、同窓生のH氏とK氏であった。その結果、興行権者からの学校のためと理解をえて協力をえられた、という）。

当日は約四千名の入場者があった。…収支決算をしたところ約十万円ぐらいしか利益がなく、仮設興行権者某氏と伊藤会長、田中前会長の三名で力道山事務所に出向き、興行の目的と経理内容を説明して契約額の引き下げと、力道山よりの寄付ということで、七十万円を受領して収入とし、収支差引八十万円の利益をみた。…募金による額と興行による収入を合わせて二百万円を二回にわけて学校建設費として寄付し、残金を同窓会館建設資金として積み立てた」（三〇〇頁）。このように、当時、同窓会の運営の資金には相当の苦心があったのであり、このことは記憶に残されてよいものである。

注：本稿の作成には私の船橋高校勤務の時に同僚であった先輩の坂田武総氏と船橋高校同期の並木日呂忠氏から聞き取りをした。協力に感謝します。

平成30年度 母校の現況

【全日制】
運動系部活動の番号区分
①29年度新人大会
②30年度関東大会予選
③30年度県高校総体
④その他

○運動系部活動
野球
①秋季県大会　予選敗退
②春季県大会　予選敗退
③第100回全国高等学校野球選手権記念
西千葉大会　ベスト16
陸上競技
①男子三段跳　下藤　5位入賞
③男子走幅跳　軍司　10位
男子棒高跳　宮地　10位
水泳
①水球　4位
競泳　女50背泳ぎ　5位
③水球　2回戦敗退
競泳　B決勝進出　3名
④水球　県高校選手権　5位
競泳　県高校選手権
男400メドレーリレー　7位
女50背泳ぎ　4位
女200背泳ぎ　8位
サッカー
①県大会ベスト32
③地区予選敗退
④高校選手権千葉県予選
決勝トーナメント代表決定戦敗退
柔道
①②③地区予選敗退
剣道
①男子団体　県大会1回戦
女子団体　県大会2回戦　ベスト32
②男子団体　県大会3回戦　ベスト32
女子団体　県大会3回戦　ベスト32
③男子団体　県大会1回戦
女子団体　県大会2回戦　ベスト32
バスケットボール男子
①県大会2回戦　ベスト32
②県大会2回戦　ベスト32
③県大会4回戦　ベスト16
④千葉県地区選抜対抗大会　優勝
4名が第9地区選抜に選出
バスケットボール女子
①県大会3回戦　ベスト16
②県大会3回戦　ベスト16
③県大会4回戦　ベスト16
④千葉県地区選抜対抗大会　準優勝
4名が第9地区選抜に選出
スタートの1名が大会優秀選手（ベスト5）
バレーボール男子
①県大会2回戦
②地区予選敗退
③県大会3回戦
バレーボール女子
①県大会出場
②地区予選敗退
③県大会出場
④秋季市民大会3位
テニス
①男子団体　県大会　ベスト8
S　川見・飯田　県大会5回戦
D　飯田・川見　県大会3回戦
鎌田・北山　県大会1回戦
女子　D　岩本・清田　県大会1回戦
②男子団体　7位
③男子団体　県大会　ベスト8
S　川見　県大会2回戦
飯田　県大会3回戦
D　飯田・川見　県大会2回戦
北山・鎌田　県大会1回戦
女子団体　県大会2回戦
ソフトテニス
①男子団体　県大会1回戦
個人　草野・田原　県大会2回戦
石井・河合　県大会2回戦
女子団体　県大会1回戦
個人　平野・水野　県大会2回戦
②男子団体　県大会2回戦
個人　草野・田原　県大会2回戦
櫨元・河合　県大会1回戦
野村・佐藤　県大会1回戦
竹林・林　県大会1回戦
③男子団体　県大会2回戦
個人　櫨元・河合　県大会2回戦
女子団体　県大会1回戦
個人　松澤・杉山　県大会3回戦
ベスト64
卓球
①男子団体　県大会出場
S　2名　県大会出場
D　1組　県大会出場
②男子団体　県大会出場
S　2名　県大会出場
D　2組　県大会出場
③男子団体　県大会出場
S　2名　県大会出場
D　3組　県大会出場
バドミントン
①男子団体　県大会出場権を得たが、修学旅行のため辞退
D　加藤・中西組　県大会出場
②男子団体　県大会出場
女子団体　県大会出場
③男子団体
D　加藤・中西組　県大会出場
S　加藤　県大会出場
④学年別　男子S　中西　県大会3回戦
ベスト16
木村　県大会出場
加藤　県大会出場
女子S
アーチェリー
①男子団体　6位
女子団体　3位
個人　三木　8位
成瀬　9位
②男子団体　6位
個人　石倉　9位
女子個人　成瀬　3位
三木　5位
③男子団体　5位
女子個人　成瀬　インターハイ出場
三木　9位
④関東高校選抜大会　女子個人　成瀬　出場
全国高校選抜大会　女子個人　宮本　出場
ダンス
④ダンスコンテスト出場
たちばな祭・校内及び校外のイベントにて発表
ワンダーフォーゲル
①県新人大会出場　男子団体　13位入賞
③県総体登山大会　女子団体　4位入賞
ソングリーディング
④たちばな祭等校内のイベントや校外のイベントにて発表

○文化系部活動
合唱
千葉県合唱アンサンブルコンテスト
Shipチーム　金賞
Bridgeチーム　金賞　関東推薦
関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト　銀賞
第38回定期演奏会開催
次回はH31・3・28　船橋市民文化ホール
NHK全国学校音楽コンクール千葉県大会　銅賞
全日本合唱コンクール
千葉県合唱コンクール　銀賞
オーケストラ
日本学校合奏コンクール千葉県大会
千葉県高等学校連合音楽会
全国高等学校選抜オーケストラフェスタ
千葉県高等学校オーケストラジョイントコンサート
船橋地区音楽会
第42回定期演奏会
将棋
千葉県高文連将棋新人大会
男子個人A級　鈴木　10位　美馬15位
千葉県総文祭将棋大会
男子団体A級　鈴木・美馬・竹沢組　9位
団体B級　石井・保野・佐藤組　優勝
個人A級　竹沢　6位入賞　美馬　9位
B級　泉崎　優勝
高校竜王戦千葉県大会
個人A級　美馬　竹沢　3勝1敗
美術
県総合文化祭美術工芸展出品
たちばな祭作品展示・出品
船橋地区展出品
書道
第34回成田山全国競書大会　日輪賞
佐藤・飯島・吉田
第70回千葉県小・中・高校書き初め展覧会
中央席書大会出場　佐藤・飯島
第23回全日本高校・大学生書道展
準優秀賞　佐藤
茶道
たちばな祭にて茶会
平成29年度第2地区（市川・船橋）茶会
呈茶校として参加
華道
たちばな祭にて作品（個人・合同）展示
船橋市いけばな展にて作品展示
JRC
たちばな祭にて　日本盲導犬協会のための募金
赤い羽根共同募金
演劇
春季地区発表会・たちばな祭で李潔音作（部員のオリジナル脚本）「0と1の雫」を上演
地区から最優秀作品賞・照明賞を受賞
鐵道研究
たちばな祭にて鉄道模型の運転・駅弁販売
佐倉草ぶえの丘秋祭りにて模型運転会実施
東京ビッグサイトで開催された第10回全国高等学校鉄道模型コンテストに出展
クイズ研究会
第38回全国高等学校クイズ選手権に千葉県代表として出場（辻・畝原・霜田）
たちばな祭にてクイズイベントを開催
各種の例会、大会に参加
ジャグリング
たちばな祭にて発表
ジャズバンド
たちばな祭・合唱祭・予餞会にて発表
定期演奏会　ららぽーとコンサート
CCC（クリスマスちょっと前コンサート）
夏季合宿実施（南房総市岩井）
現代視覚文化研究
たちばな祭にて冊子発行
4・9・11・12・2・3月に冊子発行
生物
日本生物学オリンピック2018
予選　5名参加　本選　銀賞　鈴木
ビオトープ整備　継続観察中
果菜類の栽培　成長観察中
写真
たちばな祭にて作品展示
たちばな祭・ほとぎす祭にて冊子発行
陶芸
たちばな祭にて作品展示・販売及び絵付け体験
夏季合宿（茨城県笠間市）
千葉県総合文化祭美術工芸作品展出品
船橋地区高等学校美術・工芸作品展出品
地学
たちばな祭展示・実演参加

○その他
放送委員会
NHK杯全国高校放送コンテスト千葉県大会
ラジオドキュメント部門　優良賞
朗読部門　優良賞
千葉県高文連放送コンテスト
アナウンス部門　優良賞
朗読部門　優良賞
ビデオメッセージ部門　優良賞

【定時制】
平成29年度
千葉県高校定通総合文化大会
美術　金賞　柴家　雪桐
佳作　田中　蓮
書道　佳作　加藤　一弘
写真　佳作　山本菜々美
佳作　越賀　壮太
生活体験発表　出場　佐藤　賢人
千葉県高校秋季定通体育大会
バドミントン　女子S　優勝　上田　れな
女子S　3位　久原あすか
女子D　優勝　上田・久原
サッカー　準優勝
バスケットボール男子　優勝
平成30年度
千葉県高校春季定通体育大会
陸上　100m　3位　古賀かんな
1500m　3位　大熊　悠翔
サッカー　優勝
バスケットボール男子　準優勝
バスケットボール女子　準優勝
バドミントン　女子S　準優勝　久原
男子S　3位
カンデル・ラグ
女子D　準優勝　久原・岸
男子D　3位
カンデル・鈴木
3位　サザン・影山
全国高校定通体育大会
陸上　100m　出場　古賀かんな
1500m　出場　大熊　悠翔
サッカー　出場
バドミントン　女子団体　久原
男子団体　2回戦進出
カンデル・ラグ
2回戦進出
女子S　久原あすか
2回戦進出

おたより彼れ是れ

●**内田　輝男**（昭和55年卒）
昨年3月、息子が無事船高を卒業しました。先日、同窓会名簿を見ると、大学時代同じサークルで船高出身の友人と同じクラスに息子の担任と同姓同名の人を発見!!友人に確認すると、確かに船高で教員をされているとのこと。大堀先生、お世話になりました!

●**上田　昭二**（昭和48年卒）
昨年9月に40年間の会社員生活を終えました。地元の船橋へ戻る事もなくこのまま関西での生活を続けます。趣味のオーケストラ活動を目一杯楽しんでいます。同窓会へも一度顔を出そうかと思っているのですが…

●**高橋　洋子**（旧姓額賀）（昭和49年卒）
趣味と体力保持のため、バドミントンを続けています。同窓会当日に区民大会が重なりました。一勝を目指し、がんばってきたので(?!)欠席させていただきます。

●**島倉未知子**（旧姓島田）（昭和49年卒）
いつもご連絡をありがとうございます。1年のときの担任の松永成夫先生の米寿に際し、(新潟でもあり、米寿でもあり)「新之助」というお米でお祝いさせていただきました。電話にて詩吟を聞かせていただき、高校時代がよみがえってきました。

●**杉崎嘉代子**（旧姓斉藤）（昭和38年卒）
社会福祉協議会、老人会、山の会、コーラスと、ボランティア、趣味に忙しく充実した日々を送っております。

●**小高　泰博**（昭和37年卒）
綿密な「同窓会だより」の構成に感謝しております。担当者の健康を願っています。

●**堀江　一夫**（昭和34年卒）
未だ現役の船大工、時の流れで同業者は激減、現在、日本で2社という惨状、来年喜寿を迎えるも、後けい者無しの現状では、あと3年で引退かと考えている。ヨットビルダーというケウな職業、船高生で誰か挑戦する奴は居らんかなと思う今日この頃。

●**花島　理典**（昭和48年卒）
毎年、同窓会便りの皆様の報告を拝見してそれぞれにご活躍されているようで、良いことだと思っております。私は、現在障がい者と共に農作業をする会社に勤務しており、充実した毎日を過ごしております。

●**山本ふき子**（旧姓土居）（昭和43年卒）
40才すぎてから、大学に入学したり区議会議員になったりと、様々な経験をさせていただいてます。たより楽しみに読んでます。

●**水野　恵子**（旧姓石山）（昭和52年卒）
同窓会だよりを、なつかしく思いながら拝読しました。高3の時、アメリカ留学をし(1年休学)都合4年をかけて船高を卒業したことがなつかしく思い出されました。現在はリタイアして体を鍛えるために乗馬をしています。

●**押尾　明子**（旧姓逸見）（昭和50年卒）
視聴覚委員会(放送)のOGです。放送委員会のNHK杯全国高校放送コンテスト準優勝おめでとうございます。軽妙さの中に込められた真理への探究心と偏見を見抜く自由な心。時を経ても変わらぬ船高生の心意気を感じて嬉しかったです。

●**川野　真一**（昭和50年卒）
いつもお世話になっております。公立高校の施設は、どうしても私立高校に比べると充実しておりません。ぜひ、充実した設備の高校になることを祈っております。(生徒のために)

●**黒田・和子**（旧姓黒田）（昭和45年卒）
たまにですが深川江戸資料館でボランティアをしています。平成29年には平成生まれの長女のところに長男誕生。初孫です。(おくればせながらですが)

●**朝比奈彩子**（旧姓山久保）（昭和37年卒）
『同窓会だより』懐かしく拝見しております。同窓生同士で結婚した主人が他界して5年になります。紙面にその名前が載ることでお目にとめて下さる方もいるのではないか…と考えました。母校やクラスメートを大切にする主人でした。未熟でもひたむきであったあの学窓時代を経ての今です。

●**奥永　俊哉**（昭和58年卒）
毎年末に頂く船高「同窓会だより」を拝読し、今年も一年頑張れたと思う事ができます。中でも高2、3年時にご指導頂いた小川信雄先生の「船高の歴史」と恩師探訪が楽しみです。次回はどなたが登場されるのか?一年間楽しみに。50歳半ばになった昔の高校生ですが35年前の気持ちを忘れずに日々精進いたします。

●**原田　和裕**（昭和43年卒）
S43年卒のE組のクラスメンバー11名で私の生まれ育った長崎の軍艦島ツアーを行いました。50年振りの旧交を温めました。

●**青柳　秀克**（昭和35年卒）（旧職員）
京都上京老人デイサービスで患者に歌のボランティアをして1年がすぎました。講習会講演会に行き学習を楽しんでいます。又、マスターズ(和歌山・白浜町会場)で銅メダル受賞(出場4名)しました。

●**大畑　文昭**（昭和39年卒）
71才で完全リタイヤ、70才から始めたトランペットに熱を入れていますが、70の手習、なかなか上達しません。

●**角川　勲男**（昭和33年卒）
卒業して六十年、感慨深いものが有ります。夢と希望に満ちた高校生活、当時の思い出は、決して、セピア色にはなりません。高校生活三年間、同じ教室で机を並べて学んだ仲間(女性も含む)と今でも年二回一泊二泊の旅を楽しんでおります。

●**柳本　勝**（昭和42年卒）
来年には70歳を迎えますが、未だ現役でフルタイム勤務しております。来年には一区切りして大学で勉強しようと計画しています。皆様お元気で末永く生活されることを祈ってます。

●**大木　佳**（旧姓町原）（昭和53年卒）
昨年3月末に中学校教諭の職を少し早目に退きました。35年間教職に就いていましたが最後の勤務校が母校の目の前の宮本中学校であったことに、不思議な縁を感じています。

●**佐藤みどり**（旧姓田中）（昭和52年卒）
平成29年8月に学年の同窓会を行いました。しばらくすると昔の面影がはっきりしてきてとても懐かしかったです。幹事さん、本当にありがとうございました。母校の益々の発展を祈念いたしております。

●**土田　敬子**（旧姓茂呂）（昭和49年卒）
「高校時代とても暇だったので『暇と退屈の倫理学』を書けた」と、國分功一郎氏がラジオで言っていたので、私はショックを受けた。なぜなら、私は卓球部に入っていて、睡眠時間を削って英語の予習をしていたので、常に、忙しかったから。國分氏の母校をインターネットで検索したら、もっとショックを受けた。船高だった。

●**大久保明夫**（昭和29年卒）
私は、船高から千葉大学教育学部へ進学し、教職の道へ～東京の小学校教育に関わり、定年退職後23年目。船高が、明日の人材を育てる学校として、ますます発展していくことを願ってます。

●**小島　巌**（昭和31年卒）
今年11月当クラスは傘寿の同窓会実施しました。12名出席した、卒業して62年前を語り合い、次回は米寿です。さてこれは無理かな!!「明年此の会、誰か健なるを知らんや」の心境です。何時も「同窓会だより」ありがとうございます。感謝。

●**石川　忠雄**（昭和58年卒）
船高のOBであることをいつも誇りに感じて毎日を一生懸命に生きております。沢山のすばらしい方々の事を思い出しながら参考にして人生を歩んできました。これからも、すばらしい方々が沢山卒業される事を楽しみにしております。

●**篠原　壯夫**（昭和38年卒）
ららぽーと船橋で映画を見る。ウォーキングをかねて宮本中、船高を目指します。どちらの学校も木造校舎がコンクリート校舎になり、時の流れを感じます。校舎内で学ぶ生徒たちの人生をすこし考えます。これからの日本で生きていく彼等の多幸を願うものです。

●**久保　和秀**（昭和44年卒）
埼玉県西部で、週に2～3回小学生から高齢者まで、様々な人たちと竹刀を交えています。かつての教え子やその子どもたちと稽古をしたり、時には一緒にチームを組んで団体戦の試合に出たり。まだまだ動けるのが有難いことです。

●**布施紗知子**（旧姓佐原）（昭和29年卒）
同窓会誌お送り願い有難うございました。何時間もかけて何回も読み返して昔をしのんでおります。ただ恩師や同窓生の多くがご他界されびっくりするばかり。もう一度だけでも会っていたら…と悔やまれてなりません。同期会や久太先生の会に参加させて頂いた思い出、同級会で吉田長祥先生、塩谷先生との温かい思い出も忘れられません。山田耕筰氏サトウ・ハチロー氏も光栄でした。

●**鈴木　仁**（昭和27年卒）
光陰如矢、本年(2018)85才になります。今でも同学年の諸兄姉と年数回会食し昔日の想い出等語り合って居ります。同級生ほぼ半数が他界したようですが、残った船高仲間健康第一で頑張って居ります。

●**中村　敬子**（旧姓渋谷）（昭和28年卒）
昨日犬の散歩中、船高の野球部の子が大きい袋をもち通学路のゴミ拾いをしていました。ほほえましく、なつかしい思いでした。

●**吉田智恵子**（旧職員）
H29年3月末日に10年間お世話になった船高から異動致しました。4月は「船高ロス」で頭がおかしくなりました。船高在職中、同窓会のご援助を賜り、関東大会や全国大会に参加させていただき本当に貴重な経験をたくさんさせていただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

創立百周年記念 現役・卒業生合同演奏会 実行委員会を開催

前報でお知らせしたとおり、二年後の二〇二〇年十一月頃、「県立船橋高校創立百周年記念　現役・卒業生合同演奏会」を開催する運びとなりました。これに先立ち九月十九日に、実行委員長の林昇志氏(同窓会顧問、昭和二十八年卒)をはじめ十二名の参加を得て第一回実行委員会が開催されました。

席上、曲目については「ベートーヴェン作曲　交響曲第九番　合唱付き」他を演奏すること。指揮者には、本校卒業生でプロの指揮者として活躍されている田久保裕一氏(昭和五十一年卒)に依頼(内諾済み)することを決定しました。

なお演奏会への参加要領など詳細につきましては、船橋高校同窓会のHP「二〇〇周年に向けて」に掲載していくよう検討中です。

昭和四十九年卒　器楽部OG　大浦　成子

編集後記

▽母校に赴任して七年目。その間に人生も半分を過ぎてしまいました。その昔、誰が言ったか「四十にして惑わず」。いや、いや、惑うことだらけです…▽「不易流行」という言葉が好きです。世の中や時代の流れに応じて、変わって行った方が良いものと、変わらずに大事なもの。来年にはいよいよ百周年を迎える「船高」がこれからどう発展していくのか、変化を恐れずに、でも大事なことは外さずにいきたいものです。▽体育研究室、通称「タイケン」では今窓側奥から昭和五十二年卒、柔道部顧問船高の元祖イケメン体育教師、T先生、その隣が平成八年卒、野球部顧問、船高の自称イケメン体育教師、M先生。その隣に同じく平成八年卒、バスケ部顧問の私が座っています。イケメンとユーモアに溢れ、いつも賑やかなタイケンです。▽後輩でもあり教え子でもある船高生はとてもかわいく、高校生活を毎日頑張っています。OBOGの方々にも温かい目で見守っていただき、ご支援いただきますと幸いです。駄文失礼致しました。

（平成八年卒　M）